パンデミック下における透析室の災害対策

東京慈恵会医科大学葛飾医療センター
臨床工学部[1)]、腎臓・高血圧内科[2)]
今泉糸乃[1)]、藤原貴大[1)]、宇野光晴[1)]、涌井好二[1)]、奥田晃久[1)]、渡邊尚[1)]、丹野有道[2)]

【はじめに】

大規模災害による震災、火災、水害を想定した災害訓練の実施は、職員や透析患者が正しい知識、技術を持つためにも重要である。未だ終息しない COVID-19 は、透析患者にとって重症化リスクが非常に高く、避難時の二次感染には留意する必要がある。現在、COVID-19 を含むパンデミック下における災害時の行動指針は避難所対応に限られており、医療施設でのマニュアル等は存在しない。今回、透析室におけるパンデミック下での災害対策について机上訓練を実施したので報告する。

【方法】

通常の血液透析患者及び COVID-19 感染患者が、透析室内で血液透析施行中の大規模災害を想定した。従来の院内災害対策マニュアルを用いて、医師、看護師、臨床工学技士の 3 者で机上訓練を実施した。

【結果】

● 地震

当院は免震構造であり、地震発生時は原則その場で待機する。必要に応じて緊急離脱し、災害対策本部からの指示に従う。

● 水害

台風や河川の氾濫は予測ができるため、事前に透析日や時間の調整を行う。

● 火災

従来のマニュアルでは、通常の透析患者と感染患者を水平避難させるため、同時間及び同一経路となるため二次感染の恐れがある。また、避難場所も区別する必要があるため、マニュアルの改訂が必要となった。

当院透析室の出入り口は 1 つしかなく、避難経路を分けることが難しいため、接触が最小限となるように時間差での避難とした。避難の順番は、通常の透析患者を避難させた後、濃厚接触者、続いて COVID-19 疑い患者及び陽性患者を避難させることとした。

机上訓練実施前は、透析室もしくは同エリアで火災が発生した場合、患者とスタッフは防火扉を通過して水平避難をすることとなっていた。しかし、感染患者の避難場所は個室が望ましく、個室管理が困難な場合は、最低 2m 以上距離をあける必要がある。このため、通常の透析患者は栄養部に水平避難し、濃厚接触者と COVID-19 患者は通常の透析患者から隔離できる栄養相談室または職員用エレベーターホールに水平避難させることとした（図１）。防火扉のエリア外で火災が起きた場合は従来のマニュアル通り、透析室で待機とした。

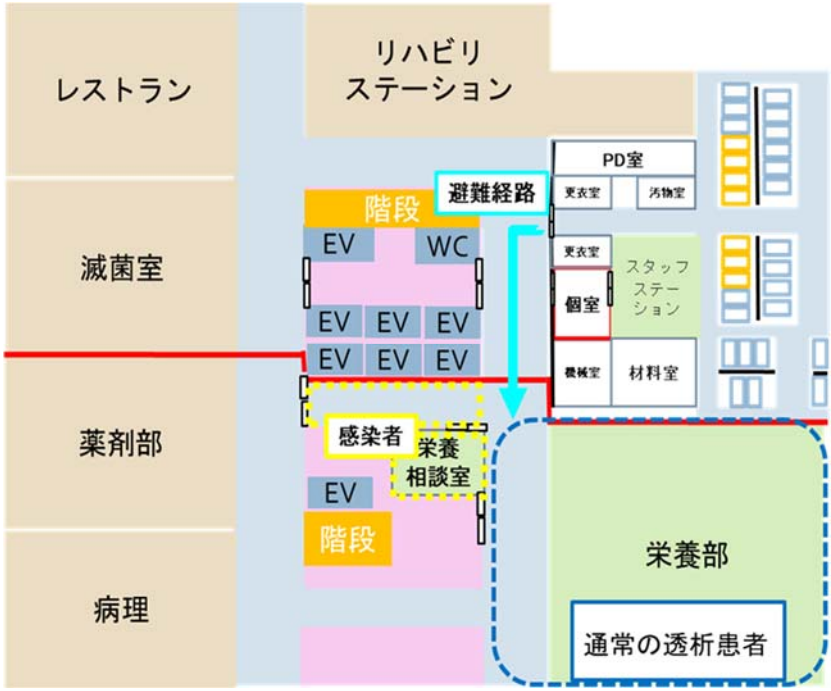

図１　当院３階フロア図

【考察】

今回は、時間差を利用した同一経路での避難を検討したが、火災は迅速な避難が必要なため、陰圧車椅子または陰圧式ベッドの導入を検討し、同時刻の避難を可能にしていきたい。

【結語】

パンデミック下における災害時の机上訓練を行った。火災に関しては水平避難の際に二次感染の恐れがあるため、マニュアルの改訂が必要となった。本課題は全国の透析医療施設でも起こり得るため、関連学会等から指針が望まれる。